

令和 2 年 5 月 16 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(B)（特設分野研究）

研究期間：2016～2019

課題番号：16KT0096

研究課題名（和文）ラテンアメリカの国際労働移動におけるジェンダー・エスニシティによる国際分業の変容

研究課題名（英文）The changing process of interantional labor division with perspective of gender and ethnicity in the Latinamerican labor migration of Latinamerica

研究代表者

松久 玲子（MATSUHISA, Reiko）

同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授

研究者番号：40239075

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,300,000円

研究成果の概要（和文）：ラテンアメリカからの労働移民が直面する問題をジェンダーとエスニシティに着目して分析した。特に、ラテンアメリカ諸国から先進国への労働移動の事例として、アメリカ合衆国およびスペインへの移民を取り上げた。再生産労働の国際分業体制のもとで、先進諸国における家事労働者の問題が浮き彫りになった。同様に、ラテンアメリカ域内の労働移動においても、経済格差が域内移動を後押ししている。女性移民の場合、ジェンダー役割に近い家事労働者やサービス業などの第三次産業に偏り、低賃金と劣悪な労働条件に置かれている。女性の単身移民の動機は、従来の家族統合だけでなく、政治状況による暴力やDVからの逃避といった特徴がみられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ラテンアメリカからの国際労働移動は、アメリカ合衆国におけるヒスパニック系移民に象徴されるように先進諸国における視点からの移民問題を対象としてきた。本研究は、従来の移民研究とは異なり、ラテンアメリカ地域における域外、域内の国際労働移動の諸相に焦点を当て比較研究をおこなった。また、特に女性と先住民に焦点を当てた調査を行った。ジェンダーの視点から移民を扱ったラテンアメリカの地域研究はほとんど出版されていない中で、もっとも脆弱な立場にある女性移民と先住民を研究対象としたことは、ラテンアメリカ地域研究および移民研究へ貢献した。

研究成果の概要（英文）：We analyzed the problems faced by labor migrants from Latin America, focusing on gender and ethnicity. As the cases of labor migration from Latin American countries to developed countries, we have taken immigration to the United States and Spain Under the international division of reproductive labor, the problem of domestic workers in developed countries has been highlighted. Similarly, in labor migration within Latin America, economic disparities are forcing intraregional migration. In the case of female immigrants, who work in the tertiary industries such as domestic workers and service industries they are placed in low wages and poor working conditions. The motives for women's single immigrants are characterized not only by traditional family unification but also by violence due to political conditions and escape from DV.

研究分野：ラテンアメリカ地域研究

キーワード：移民 ジェンダー ラテンアメリカ 女性移民 国際労働移動 先住民の移民

様式 C - 19, F - 19 - 1, Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

経済のグローバリゼーションとともに、新たな国際分業体制のもとで国際労働移動が近年急速に拡大し、国家を越えたグローバル・イシューとして浮上してきた。経済のグローバリゼーションによる新国際分業の進展は諸地域に伝統的経済構造の変質と文化的変容をもたらしている。エスニシティとジェンダーの視点からこの新国際分業体制を見ると、伝統的地域共同体に生きると言われるラテンアメリカの先住民が国内移動を経ずに、直接国外移動をする事例が存在し先住民共同体の液化化現象がみられる。また、単独で移民する女性の増加つまり国際労働移動の女性化と、女性移民労働者が先進国において家事サービス、育児、介護などの再生産労働領域に従事するという現象が見られる。こうした国際労働移動を背景に、「南」から「北」への国際労働移動、つまり発展途上国から欧米などの先進工業国、グローバル・シティへの移動が注目されているが、国際移住機関(IOM)の調査によれば南からの国際労働移動の約半分は南から南、つまり発展途上国間の移動である。

ラテンアメリカでは、近年移住人口が急速に拡大しているとともに、貧しいラテンアメリカ諸国から豊かなアングロアメリカという構図だけではなく、ラテンアメリカ地域内、あるいはヨーロッパへとその移動の範囲が多様化している。この状況は世界銀行、IOMなどの国際機関により調査され、世界諸地域の国別レポートが発表されているが、ラテンアメリカ地域内と地域圏外のアングロアメリカやヨーロッパを対象として、その移動、すなわち南北、南南の移動をジェンダーとエスニシティの視点から見る総合的な比較研究はほとんどなかった。日本でも、国際労働移動あるいは移民研究は、主に欧米を中心とした受け入れ国の社会問題、あるいは送り出し国の社会問題という視点から研究が行われ、ラテンアメリカ域内およびアングロアメリカおよびヨーロッパを含むグローバル規模での国際労働移動のダイナミズムを総合的に分析しようとする国際労働研究はみあたらない。また、新国際分業体制のもとで、家事、育児、介護などの担い手としてアジア出身の女性移民労働者の研究が進む中で、ラテンアメリカ地域出身の女性移民労働者の事例は、アメリカ合衆国におけるラテン系家事労働者の研究を除いてはほとんど手つかずとなっていた。

こうした問題意識を背景に、本研究ではラテンアメリカ地域を軸としながら、アングロアメリカおよびヨーロッパにまたがる多様な移民労働の実態を調査することにより、送り出し側、受け手側の国内問題としてではなく、労働のグローバリゼーションにおける南北、南南の国際労働移動に焦点を当てた国際分業体制に着目して比較分析することをめざした。

2. 研究の目的

本研究は、ラテンアメリカ地域における南から北と南から南の国際労働移動を対象とし、移動における国際分業体制を比較検討し、ジェンダーとエスニシティによる国際分業の再配置化と複層化するグローバリゼーションの実態を明らかにすることを目的とした。

ラテンアメリカでは20世紀初頭から季節労働を中心とする国際労働移動が徐々に開始され、20世紀半ば以降からは内戦や紛争による難民の国際移動が見られた。さらに1980年代頃からラテンアメリカ諸国の債務超過による構造調整の結果として多くの国で失業率・貧困率の上昇がみられ、経済的な理由による移民が急速に増加した。また、アメリカ合衆国の移民政策の変化とともに2000年代からはラテンアメリカの人々の移民先も多様化している。新自由主義経済が人の移動のグローバル化を推し進めているが、単に豊かな先進諸国への貧しい諸国からの移動だけではなく、グローバル化の連鎖としての国際労働移動が起こり、複数のグローバリゼーションが進行しているといえる。ラテンアメリカにおいても域内・域外の両方の国際移動が活発化している。さまざまな経済規模や経済

レベルのラテンアメリカ諸国の世界規模の国際労働移動を事例とし、国際分業を軸に複数のグローバル化の実態を通して、以下の点を明らかにする。

(1) 20世紀初期から始まり現在でも続く期間労働を中心とした国際労働移動と21世紀からみられる現在の国際労働移動とは、空間的、量的な相違だけではなく国際分業体制と関連した構造的変化を明らかにする。

(2) エスニシティの視点から国際分業を見ると国際労働移動により先住民などの「伝統的」といわれる地域社会に生じた変化を明らかにする。また、ジェンダーの視点から国際分業を見ることにより、周辺の女性たちが中心あるいは半周辺国においてどのように配置され、それが受け入れ社会、送り出し社会に及ぼす影響を与えているかを検討する。

(3) 国際労働移動の拡大を受けて、ラテンアメリカ地域では、国際移動する人々の労働条件、社会保障、政治参加などを域内での条約や二国間協定により改善しようとする動きがある。そのような動きは、どのような実効性を持ち、移民の権利保障に貢献しているのかを明らかにする。

3. 研究の方法

ラテンアメリカ域外、域内の国際移動、すなわち南から北、南から南への移動を総合的に調査し、事例をもとに比較検討するため、研究分担者を域外移動と域内移動の二つのグループに分け、各分担者がラテンアメリカの主要な国を担当し、文献調査と現地での聞き取り調査を行った。できる限り多くのラテンアメリカ諸国の事例を参考とするために、調査対象国を増やすことを目的に、科研の研究グループのみでなく、同志社大学の人文科学研究所の部門研究会で活動する研究者およびメキシコの研究機関と連携して調査を行った。

事例研究の分担は、南から北への国際労働移動を研究対象とする研究班と南から南への国際労働移動を研究対象とする班の二つのグループに分けた。また、その中でエスニシティを軸として、先住民の労働移動を分担する研究者と、ジェンダーを軸に女性移民労働者を研究する分担者に分けた。南から北への域外移民の事例として、メキシコ、エルサルバドルからアメリカ合衆国へ、キューバ、および南米からスペインへの6つの事例を取り上げた。そのうちの2事例は、メキシコのマヤ系先住民のアメリカ合衆国への移動である。また、域内移民の事例として中米からメキシコ、ニカラグアからコスタリカ、コロンビアからチリ、南米周辺国からアルゼンチンへの4つの事例を取り上げ、現地調査を行った。

2016年度から2018年度までは、年6回の研究会を開催し、移民理論の共通理解の形成、他の視点からの国際労働移動の知見を得るための講演会、および各担当者の進捗状況と情報交換を行い、報告をまとめる作業を行った。

4. 研究成果

本研究の成果の一部として、2019年6月に開催された日本ラテンアメリカ学会第40回定期大会においてパネル「ラテンアメリカにおける国際移民とジェンダー」(代表松久玲子)において発表を行い、以下の内容を公開した。1980年代以降、ラテンアメリカ地域内・域外ともに女性の国際移動が次第に顕在化してきた。移民女性は家族統合の結果として移民すると考えられ、単独での女性移民は不可視化されていたが、1990年代から国際移民の女性化がとりあげられるようになった。ラテンアメリカにおいても、単独での女性の国際移住の傾向が明らかになり、その移動過程で直面する女性の脆弱性や移民先での不安定雇用への組み入れ、送り出し国における家族やコミュニティへの影響などの問題が顕在化してきた。パネルでは、4つの事例を取り上げ、その発表を通じて、移民の女性化が進む要因や女

性が直面する問題を明らかにした。 コスタリカにおけるニカラグア女性移民と新自由主義(松久玲子) 南米域内の国際労働移動 コロンビアからチリへ(柴田修子) ラテンアメリカからスペインへ:家事労働分野における女性移民労働者(深澤晴奈) 移民と女性のエンパワーメント:ニューヨーク大都市圏におけるメキシコ人コミュニティの事例(北條ゆかり)。

また、国際労働移動とエスニシティに関しては、2019年5月に同志社大学人文科学研究所紀要『社会科学』第49巻第1号において『ラテンアメリカからアメリカ合衆国への移民とエスニシティ』の特集を組み、分析軸の一つであるエスニシティを中心に据えた論文を掲載した。特集では、メキシコからアメリカ合衆国への国際労働移動を中心として2つのテーマを取り上げた。第一部のテーマは、メキシコ先住民の国際労働移動で3つの論文から構成されている。一つの論考では、これまでの先行研究を踏まえ多様なメキシコ先住民の北米への移動とその特徴を俯瞰した。また、二つのメキシコ先住民の国際移動に関する個別の事例研究を発表した。カリフォルニアで暮らすユカタン出身のマヤ移民のコミュニティにおける「市民社会」の形成と、メキシコのオアハカ州の送り出し農村のフィエスタと国際労働移動の関係を分析したものである。第二部のテーマは、アメリカ合衆国における非正規移民についてである。論文では、1950年代の非合法移民に対する連邦政府とカリフォルニア州の政策について、また、「難民」認定されないエルサルバドル系避難民に対するラテン系市民団体の対応について考察した。

本研究プロジェクトの最終成果として、『国境を越えるラテンアメリカの女性たち:ジェンダーの視点から見た国際労働移動の諸相』(晃洋書房,2019年12月)を刊行した。女性移民を主要な対象とすることにより、ナショナリティ、ジェンダー、エスニシティなど様々な要因が重なり合うことにより脆弱性を高める人々が移民過程においてどのような状況におかれ、困難を克服しようとしているのかを分析した。「南」から「北」への事例として、アメリカ合衆国におけるエルサルバドル移民の移民動機(1章)、アメリカ合衆国のメキシコ移民女性(2章)、アメリカ合衆国における期限付き移民プログラムで働くメキシコ人労働者(3章)、キューバからスペインへの移民(4章)、南米からスペインへの女性移民(5章)、そして「南」から「南」の域内移動の事例として、メキシコにおける中米移民の家族統合(6章)、コスタリカにおけるニカラグア女性移民(7章)、コロンビアからチリへの移民(8章)、アルゼンチンにおける女性移民労働者(9章)の事例を取り上げ、以下の知見を得た。ラテンアメリカにおける経済危機とそれにとまなう構造調整の影響で、域外・域内移動ともに変化が生じている。1980年代以降、女性の単身での国際移動が顕在化してきた。同時に、受け入れ国側の労働需要を反映して、ジェンダーや階層、ナショナリティにより分断化された労働市場への組入が起こっている。域外の移民の場合は渡航のための経済的負担や言語、文化の違いなどにより域内の移民と比べ女性が移民する際のハードルは大きい。アメリカ合衆国への移民の場合、移動のための経済的な負担や危険性や家族や子どもの世話などのジェンダー役割による拘束を乗り越える必要があり、男性移民と比べると移民の動機は政治的、経済的な理由だけでなく、移民の理由付けは多様である。アメリカ合衆国での社会統合に関しては、一般に不安定、低賃金、劣悪な労働環境にさらされた最も脆弱な犠牲者としての面が存在する。しかし、それだけではなくそうした環境の中でも独自のネットワークを作り、エンパワーメントを達成している女性の存在もある。スペインの場合は、スペイン語圏という言語文化の共通性により比較的移民しやすい状況にある。一見、職業でのステップアップがし易く、社会統合が進んでいるように見えるが、滞在が長期化する中で次

第にさまざまな問題に直面する。当たり前のことではあるが、移民の社会統合は個人の経験によりさまざまである。しかし、女性であることにより脆弱な労働環境に組み入れられやすく、労働市場だけではなく社会生活においても多面的な統合の局面にさらされている。

グローバリゼーションが直接的、間接的に生み出すラテンアメリカの貧困格差や貧困を背景とした暴力は、労働市場がより大きな近隣国への国際労働移動を生み出している。ここでも女性移民労働者は、労働市場においても社会保障においても、より脆弱な立場に置かれている。厳しい移民がおかれた状況のなかで、家族に責任を負うというジェンダー規範を内在化する女性は、家族統合を優先して行動する。

女性移民の動機付けに関しては、ミクロレベルの個々人のさまざまな移民への動機づけと並行して、域内、域外ともにグローバリゼーションの新自由主義的労働市場の形成のなかで、新たに形成された労働市場の需要を満たすべく女性移民が増加している。また、域外、域内ともに地域レベルあるいは二国間レベルでの労働移動にかかわる協定が移民ルートの決定に大きな影響を与えている。域外移民に関しては、コストとリスクが域内よりも大きいことから、階層や教育レベルがより高い層が移動している。域内移動では、伝統的な農村から農村への季節労働のための国際移動と並行して、都市から都市への移動が増加している。特に、女性移民の場合は、都市でのサービス産業、特にホテルやレストランでの就業や個人宅での有償家事労働などの労働需要が女性移民労働者の受け皿となっている。ここで注目すべきは、豊かな「北」の労働市場であろうと相対的に貧しい「南」の労働市場であろうと、国籍や居住権、ジェンダーにより分断化された労働市場が形成されていることである。移民労働者、ジェンダーという二重の差別が女性移民労働者の脆弱性を高めている。つまり、グローバルな国際労働分業システムが、「北」と「南」を問わず、両方で安価で調整弁となる労働力を作り出し機能しているのである。女性に課されたジェンダー役割やジェンダー規範により、移民女性は越境する世帯保持や家族統合への責任を、男性移民と比べより強く内在化することになる。以上の研究から得られた結論は、以下のとおりである。

(1) 20世紀初期から始まり現在でも続く期間労働を中心とした国際労働移動と21世紀からみられる現在の国際労働移動とは、空間的広がりの拡大、移動人口の量的な拡大がみられるが、南の労働市場であろうと北の労働市場であろうと、国籍や居住権、ジェンダーにより分断化された労働市場への組み込みがなされている。

(2) エスニシティの視点から国際分業を見ると国際労働移動により先住民などの「伝統的」といわれる地域社会から、国内の都市部への移動を経ずに国際労働移動が起こっている。しかし、移民受け入れ地域、主にアメリカ合衆国では先住民の出身コミュニティとの結びつきがさまざまな形で影響をおよぼし、新たな連帯組織が生まれている。また、地域コミュニティとのつながりを梃とした女性のエンパワーメントの可能性も垣間見られる。ジェンダーの視点から国際分業を見ると、周辺の女性たちが中心あるいは半周辺国において最底辺の劣悪な労働市場に組み入れられ、労働権の侵害が多々見られる。受け入れ社会において残された家族の面倒を他の女性親族がみるという再生産労働の連鎖が見えられる。送り出し社会においては、福祉政策の代わりに低賃金の移民労働者により再生産労働を代替させことによりジェンダー構造の維持が行われている。

(3) 国際労働移動の拡大を受けて、ラテンアメリカ地域では、国際移動する人々の労働条件、社会保障、政治参加などを域内での条約や二国間協定により改善しようとする動きがあるが、その運用は各国で多様であり、実効性があるとはいいがたい。移民の権利保障とその実効性についてのさらなる研究が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 山内熱人	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 フェスタのための移民：メキシコ、オアハカ州の農民の事例より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会科学	6. 最初と最後の頁 47-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 26753	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸田山祐	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 地域レヴェルでのメキシコ系住民政策：1950年代カリフォルニアの事例を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会科学	6. 最初と最後の頁 71-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 26754	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺暁	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 メキシコユカタン州からアメリカ合衆国カリフォルニア州への移民：マヤの人々による「移民の市民社会」構築の試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会科学	6. 最初と最後の頁 29-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 26752	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川智彦	4. 巻 49(3)
2. 論文標題 在米エルサルバドル国民のDUI取得と本国選挙への参加をめぐる課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会科学	6. 最初と最後の頁 31-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 27205	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川正紀・中川智彦	4. 巻 第54号
2. 論文標題 「永住権保持者の『帰化』を促すもの、妨げるもの：エルサルバドル系移民女性にとっての米国市民権」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『フェリス女学院大学文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 79-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸田山祐	4. 巻 第35号
2. 論文標題 「ブラセロ・プログラムの終焉と米国型ゲストワーカー政策の成立 - 1950年代から60年代中葉の短期移民労働者導入をめぐる政治」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『アメリカ史評論』	6. 最初と最後の頁 26-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸田山祐	4. 巻 第971号
2. 論文標題 「非合法移民問題をめぐる戦後期の米墨関係 - 国境の管理と移民労働者導入のせめぎ合い」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『歴史学研究』	6. 最初と最後の頁 48-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川正紀	4. 巻 第53号
2. 論文標題 「内戦終了後のエルサルバドルからの対米移民の継続的流入とその原因：暴力から逃れて来る移民たち」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『フェリス女学院大学文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 137-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺暁	4. 巻 第20号
2. 論文標題 「マヤとサポテコのロサンゼルス カリフォルニアに住むメキシコ先住民の世界」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ワセダアジアレビュー』	6. 最初と最後の頁 40-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松久玲子	4. 巻 37
2. 論文標題 第二次オルテガ政権下のジェンダー平等政策とフェミニズム運動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ研究年報	6. 最初と最後の頁 23-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松久玲子	4. 巻 9
2. 論文標題 「家事労働者条約」批准をめぐるラテンアメリカ諸国の動向	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 G R -同志社大学グローバル地域文化学会 紀要	6. 最初と最後の頁 49-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸田山佑	4. 巻 53
2. 論文標題 雇用主罰則と合法化措置：1940年代後半から50年代前半のメキシコ人非合法移民問題をめぐる政治過程	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 同志社アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 20-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/pa.2017.0000015373	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中川正紀	4. 巻 53
2. 論文標題 内戦終了後のエルサルバドルからの対米移民の継続的流入とその原因：暴力から逃れて来る移民たち	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 フェリス女学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 137-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田沼幸子	4. 巻 514-2
2. 論文標題 本当はよく知らない『重要な他者』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 35-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸田山祐	4. 巻 49 (1)
2. 論文標題 「戦後期ブラセロ・プログラムの確立；1950年代前半のテキサスへのメキシコ人短期移民労働者導入を中心に」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『社会科学』（同志社大学人文科学研究所）	6. 最初と最後の頁 33-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田修子	4. 巻 33 (1)
2. 論文標題 「サパティスタ22年の歩み」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『ラテンアメリカ・レポート』（アジア経済研究所）	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 柴田修子	4. 巻 46(1)
2. 論文標題 「「メキシコ移民ガイド」 メキシコ政府は不法移民を推進したのか? 」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『社会科学』(同志社大学人文科学研究所)	6. 最初と最後の頁 147-168
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深澤晴奈	4. 巻 46(1)
2. 論文標題 「スペインの移民政策とラテンアメリカ出身移民—その実態と背景としての法的優遇」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『社会科学』同志社大学人分科学研究所	6. 最初と最後の頁 65-92
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川正紀	4. 巻 52
2. 論文標題 「本国生まれの在米エルサルバドル系二重国籍者に見られるトランスナショナリズムの背景 政治意識・行動、米国国籍取得の理由および『本国への永住帰国の夢』の分析から 」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『フェリス女学院大学文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 33-57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田沼幸子	4. 巻 513(2)
2. 論文標題 「社会人類学演習II前期 初の試みとしてのインタビュー作品集」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『人文学報』	6. 最初と最後の頁 39-62
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 松久玲子
2. 発表標題 コスタリカにおけるニカラグア女性移民と新自由主義経済
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田修子
2. 発表標題 南米域内の国際労働移動 - コロンビアからチリへ
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 深澤晴奈
2. 発表標題 ラテンアメリカからスペインへ家事労働分野における女性移民労働者
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北條ゆかり
2. 発表標題 移民と女性のエンパワーメントーニューヨーク大都市圏におけるメキシコ人コミュニティの事例
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田修子
2. 発表標題 和平合意後のコロンビア：トゥマコの事例から
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 深澤晴奈
2. 発表標題 移民受入国となったスペインにおける政策決定軸と地域主義～カタルーニャ自治州の社会統合政策からみえてくること
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 深澤晴奈
2. 発表標題 スペインの地域主義と移民：グレーバー『負債論』における「コミュニズム」的視点から
3. 学会等名 カルチュラルスタディーズ学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宇佐見耕一
2. 発表標題 "Diferencias del envejecimiento y la vejez en Japón y América Latina"
3. 学会等名 XIII Congreso Argentino de Gerontología y Geriatria (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 松久玲子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 252
3. 書名 国境を越えるラテンアメリカの女性たち—ジェンダーの視点から見た国際労働移動の諸相	

1. 著者名 国本伊代編著、柴田修子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 346
3. 書名 『現代メキシコを知るための70章』	

1. 著者名 山岡加奈子編、宇佐見耕一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 200
3. 書名 『ハイチとドミニカ共和国 - 一つの島に共存するカリブ二国の発展と今 - 』	

1. 著者名 戸田山 祐	4. 発行年 2018年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 360
3. 書名 ブラセロ・プログラムをめぐる米墨関係	

1. 著者名 宇佐見耕一、山岡加奈子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 200
3. 書名 ハイチとドミニカ共和国	

1. 著者名 宇佐見耕一・菊池啓一・馬場香織 編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 IDE-JETROアジア経済研究所	5. 総ページ数 265(3-38、255-262)
3. 書名 『ラテンアメリカの市民社会組織-継続と変容』	

1. 著者名 田中高、高木史江、富田晃、中川智彦、夏目泰子、長谷川悦夫、松久玲子、森田実希、渡邊尚人	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 302(75-79, 149-185)
3. 書名 『ニカラグアを知るための55章』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田沼 幸子 (Tanuma Sachico) (00437310)	首都大学東京・人文科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	渡辺 暁 (Watanabe Akira) (20635338)	山梨大学・総合研究部・准教授 (13501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	北條 ゆかり (Hojo Yukari) (40263032)	摂南大学・外国語学部・教授 (34428)	
研究分担者	宇佐見 耕一 (Usami Koichi) (50450458)	同志社大学・グローバル地域文化学部・教授 (34310)	
研究分担者	中川 正紀 (Nakagawa Masanori) (70295880)	フェリス学院大学・文学部・教授 (32711)	
研究分担者	戸田山 祐 (Todayama Tasuku) (20774029)	千葉大学・大学院社会科学研究院・助教 (12501)	
研究協力者	中川 智彦 (Nakagawa Motohiko)		
研究協力者	深澤 晴奈 (fukazawa Haruna)		
研究協力者	山内 熱人 (Yamauchi Atsuto)		